

濁度・色度計

使用法

型式 WA-PT-4S

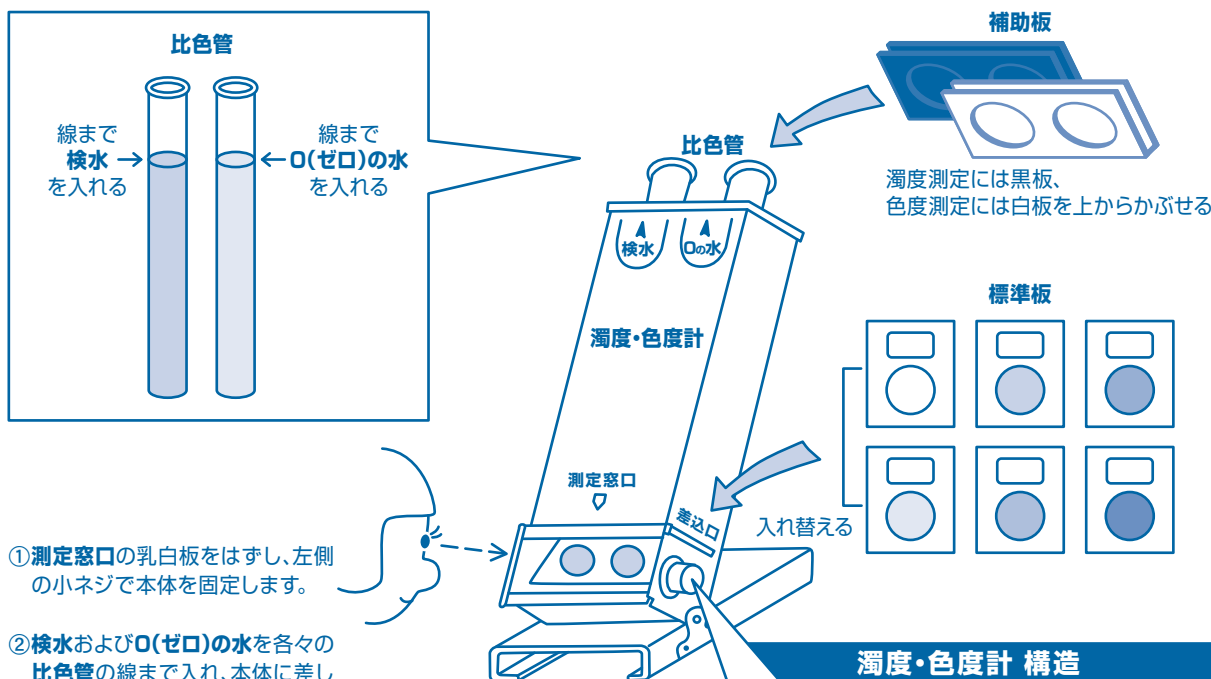
標準板を用いた比濁法・比色法による

Turbidity / Color Comparator Set

濁度 標準板 0.5、1、2、3、5、10、15度 ポリスチレン標準液による

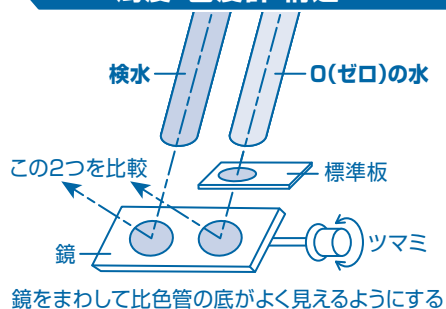
色度 標準板 2、4、5、6、10、20度 塩化白金酸コバルト標準液による

測り方



- ①測定窓口の乳白板をはずし、左側の小ネジで本体を固定します。
- ②検水および0(ゼロ)の水を各々の比色管の線まで入れ、本体に差し込みます。
- ③右側のツマミをまわし、比色管の底がよく見えるように、鏡を調整します。
- ④見えにくい場合は、補助板(濁度測定には黒板、色度測定には白板)を上からかぶせます。
- ⑤両方の比色管を見比べて、差があるときは、標準板差込口より標準板を入れ替えます。
両方の比色管を見比べて、同じまたは近い濁り(色)の時の標準板の数値が検水の濁度(色度)です。

濁度・色度計 構造



※標準液を用いて測定する場合は、調製した標準液を0(ゼロ)の水の代わりに比色管に入れ、標準板を抜いて、本体を垂直にセットし、比色管の上から覗き込んで透視して濁り(色)を比較します。下面を白くする時は、乳白板を鏡の前に差し込んで測定し、下面を黒くする時は、鏡を反転させて測定してください。

※濁度:水道法および遊泳用プールの水質基準は、2度以下です。

※色度:水道法による基準は、5度以下です。

注意

- 測定終了時には、すぐに両方の水を比色管より出し、よく洗ってください。
- 比色管の底は、常にきれいにしておいてください。
- 0(ゼロ)の水は、使用していると汚れてきますので、定期的に交換してください。0(ゼロ)の水は、蒸留水または精製水で代用できます。
- 光源によっては、比濁(比色)が困難になります。両方の比色管に最も差がでるように光源の種類・向きを選んでください。



株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

神奈川県横浜市緑区白山1-18-2 ジャーマンインダストリーパーク
TEL: 045-482-6937

濁度・色度計

特徴

この製品は、厚生労働省告示や上水試験方法の比濁法(濁度)や比色法(色度)の原理を用いており、標準液のかわりに標準板を用いて、検水と比較することによって、その濁度・色度を読み取ります。

シンプルな構造と簡単な操作のため、誰でも手軽に飲料水等の水質を現場でチェックできます。

濁度 混和ポリスチレンを標準とした透視比濁法

水中を透過する光が分散粒子によって反射または散乱して、透過量を減じる割合を肉眼により比較測定する方法を用いています。

比較対象として5種のポリスチレン系粒子(JIS Z 8901に規定する試験用粒子1)を所定の比率で混和したもの(標準混和ポリスチレン)を用いています。

精製水1Lに標準混和ポリスチレン1mgを含むときの濁りが、濁度3度に相当します。

色度 塩化白金酸コバルトを標準とした比色法

水中に含まれる溶解性物質およびコロイド性物質が呈する類黄色ないし黄褐色の強さを、塩化白金酸カリウムと塩化コバルトの混合された色度標準液を段階的に希釈した標準列で、肉眼により比較測定する方法を用いています。

色度1度とは、精製水1Lに塩化白金酸カリウム中の白金(Pt)1mg および塩化コバルト中のコバルト(Co)0.5mg を含むときの呈色に相当するものです。

補充品

型式	製品名	備考
WA-PT-4N	比色管	
PT-4-TN	濁度標準板	全7種(1種ずつ販売)
PT-4-CN	色度標準板	全6種(1種ずつ販売)
WA-PT-4W25	0(ゼロ)の水	250mL